



横浜の私たち

1 市民の暮らしと気持ち

——その多層性を中心に——

1 インフレ

市民生活の 四大不安

横浜市役所が昭和四十八年度に市民から受け取った「市長への手紙」の投稿傾向をみると、これまで数の上で上位を占めていた「道路舗装」や「下水道整備」にかわって、一

位には物価問題を主とした「消費経済」が、また、二位には「老人福祉」が浮かび上った(表1)。物価高が

住宅難、車公害の問題とともに、過去何年も変わることなく私たち市民の生活を悩まし続けてきた「三悪」の一つであることは、私たちの実感であると同時に、多くの調査がほぼ一致して示しているところであった。しかし、ここ一年ほどの間に、いわゆる狂乱物価の問題が、老人に象徴される弱者保護の要求を強めてきたことは、それだけその影響が深刻さをまし、その打撃を受ける人たちが具体的になってきたとみるべきであろう。



市民の暮らしと気持ち

表-1 「市長への手紙」年度別投稿順位表(内容別)

年度別	順位		1		2		3		4		5	
	内容		内容別	%	内容別	%	内容別	%	内容別	%	内容別	%
38	道路舗装	15.1	下水道	6.4	ごみ収集	5.7	尿 くみとり	4.6	道路補修	4.2		
39	道路舗装	10.6	尿 くみとり	6.8	道路補修	6.3	下水道	5.5	ごみ収集	4.3		
40	道路舗装	10.9	下水道	7.0	ごみ収集	4.9	尿 くみとり	4.6	道路補修	3.5		
41	道路舗装	9.7	下水道	6.4	尿 くみとり	3.4	ごみ収集	3.3	道路補修	2.9		
42	道路舗装	10.1	道 路 安 全 施 設	6.8	治水関係	5.3	市政方針	3.6	下水道	3.1		
43	道路舗装	9.4	下水道	6.4	道路補修	3.4	道 路 安 全 施 設	3.2	市政方針	3.0		
44	道路舗装	10.2	下水道	6.5	道路改良	3.8	市営バス	3.7	道 路 安 全 施 設	3.6		
45	道路舗装	6.0	下水道	4.9	道路改良	2.6	市営バス	2.5	公 園	2.2		
46	道路舗装	7.1	下水道	6.1	都 市 計 画 街 路	4.4	道路改良	3.3	公 園	3.2		
47	下水道	6.9	公 園	5.9	道路舗装	5.3	市営バス	4.0	公 害	2.7		
48	消費経済	5.0	老人福祉	4.7	学校施設	4.6	公 園	2.2	下水道	1.9		

〔市民局広聴課〕

表-2 市民生活の四大不安

〔複数回答〕		
第一位	物価高	54.9%
第二位	老後・病気	23.2%
第三位	公害・交通事故	20.6%
第四位	住宅	16.5%

〔49年4月、都市研調査〕

アンケート調査からみると、市民生活を悩ましているさまざまな問題のうち、物価高は、その影響に強弱はあるが、ほぼ全市民的に共通する大きな問題として第一位にあげられている。また、老後や病気、住宅の不安は深刻であり、いずれも二割前後の市民が訴えている。さらに、慢性的に進行しつつある生活環境悪化の問題があり、公害や交通事故の不安も大きく市民生活をおおっている。これら物価高、老後や病気、住



横浜の私たち

宅、公害・交通事故の問題は、現在、私たちの市民生活をおびやかしている四大不安と呼ぶことができる(表2)。

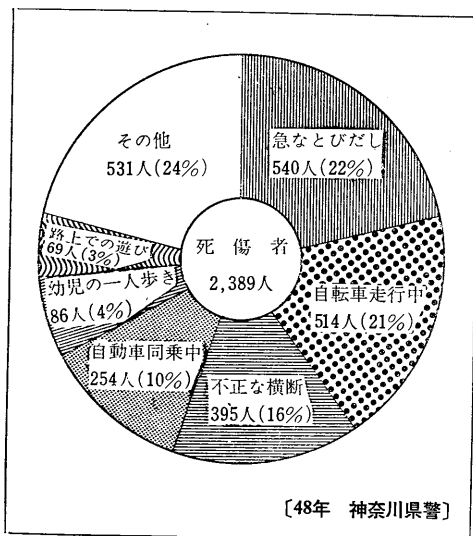
浮き彫りになった市民福祉

物価高は、ほぼ全市民的に影響を与えているとはいえ、とくにその不安を強く訴えているのは三〇代で未就学児のいる世帯と、六〇歳以上の老人である。とくに老人にとっては、老後や病気の不安と重なって、物価高は生活の上にかきわめて深刻な影を落としている。

老後の不安は、すでに四〇代から始まり、五〇代では女性が、六〇歳以上では男性が強く訴えており、そのなかでも、老後の保障が比較的不安定な中小自営業や労務職の人や無職の老人に強い。

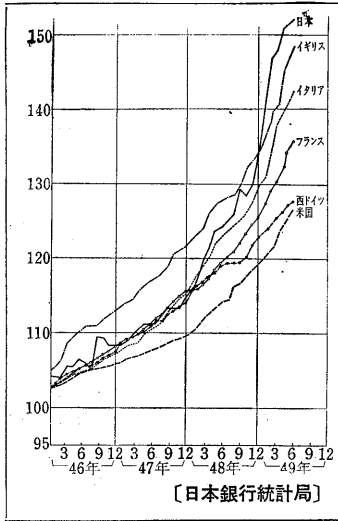
住宅のことは、とくに持家の居住者が少ない二〇代、三〇代の若年層にとっての悩みである。引き続き地価の高騰により、十分な広さと良い環境を備えた持家を求める気持ちを諦らめてしまった人も多いのだから

図-1 子どもの交通事故発生原因



うか、持家にかわって、狭くてもある程度設備の整った公営・公団の賃貸団地に入居したいという控え目な希望が増えてきている。また、住宅難は、単に住居の狭さや設備の悪さだけでなくとどまらず、収入にくらべて高い家賃の支払いによる家計の苦しさも生み出してい

図-2 主要国消費者物価指数の動向
昭和45年=100



市民の暮らしと気持ち

る。しかも、四十八年秋にはじまるいわゆる狂乱物価が、住宅困窮世帯にひとしお重い打撃を与えていることがはつきりわかる。

これに対して、公害・交通事故の不安(図1)がとくに強いのは、通学児童のいる三〇代の主婦と、どちらかというと比較的安定した生活をしている経営管理職や収入の多い層である。これら公害・交通事故に敏感な層にくらべ、二〇代の若年層や労務職、あるいは

収入の低い層の人たちが環境のよいところに住んでいるとは決していえないが、それにもかかわらず、この人たちは公害の不安を第一にあげてはいない。このことは、これらの層の人たちが、公害の不安よりも、とくにインフレという状況のなかで市民福祉の基礎的要素である家計、住宅、老後、病気などのより深刻な不安にさらされていることをむしろ浮き彫りにしている、と読みとるべきであろう。

弱い層ほど物価の打撃

横浜市の消費者物価指数は、四十五年を一〇〇とすると、毎年五〜六%の上昇率を示してきたが、四十八年下半年から四十九年上半年にかけては、一、二カ月で五〜六%にもおよぶ時があるなど急激な上昇率が続いた(図2)。牛肉や豚肉、豆腐、砂糖など毎日食卓に並ぶ品目も、この一年間の上昇率は、それ以前の五年間で示した金額に匹敵するか、あるいはそれ以上という数字が出ている(表3)。私たちの身のまわりをみても、四十九年に



横浜の私たち

表-3 横浜市の小売価格の推移

(単位: 円)

昭和	品目 キャベ ツ (1kg)	塩さけ (100g)	牛肉・ 豚肉・ 中 (100g)	豆腐 (100g)	砂糖・ 上白 (1kg)
43年 平均	34.35	81.36	112.74	81.52	7.17 124.42
44年	43.77	101.52	114.46	94.58	7.37 123.78
45年	72.29	100.54	114.31	91.42	8.43 132.57
46年	62.88	101.53	121.51	93.12	9.54 135.87
47年	45.08	97.82	131.06	98.95	9.95 142.37
48年	74.33	135.64	177.66	110.76	13.45 155.58

〔総務局統計課「横浜市の物価」〕

入って、電気・ガス料金、私鉄の運賃、新聞代、風呂代などの値上がり相つぎ、同年秋以降には、消費者物価、国鉄運賃、医療費、タクシー代、電話・郵便料金などの公共料金をはじめとする値上がりが相ついで

実施、また予定されている。とどまることを知らない消費者物価の上昇に、先行きの生活不安が大きく広がっているのが現状である。

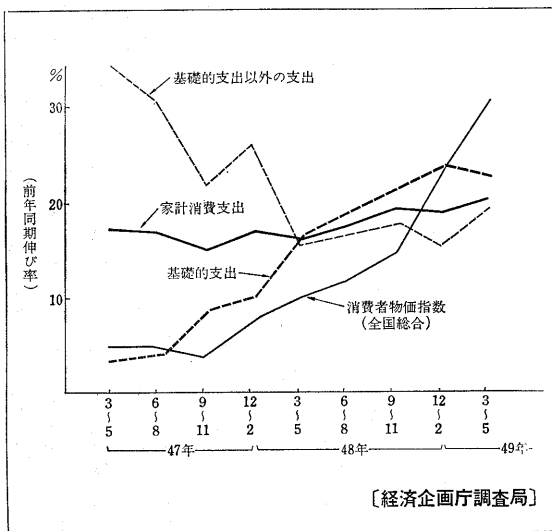
この急激な物価の上昇に対して、市民のうち七割は、何らかの「やりくりをしている」と答えており、「困っているがやりくりをしていない」一割の市民を加えると、八割が高騰する物価の直接的な影響にさらされていることになる。

インフレのなかで、やりくりに追われているのは、もちろん、台所をあずかっている主婦が中心であるが、無職の老人にもやりくりをしている人が多い。また、当然のことだが、比較的暮らしむきの苦しい人たちもなかでこの割合は高い。比較的暮らしむきの苦しいのは、六五歳以上の老人や三〇代、四〇代の市民層、月収は一五万円未満で月々高い家賃を支払わなければならない民間アパートやその他の賃貸住宅の居住者および分譲住宅を購入してその返済におわれている人たちである。つまり、インフレは、収入がないか、



市民の暮らしと気持ち

図-3 家計消費支出増加率の推移



ベースアップの期待できない老人はもろんのこと、育ち盛りの子どももがいて、あまり収入の多くない家庭や、住宅事情も安定していない人たちに、より強い打

撃を与えているわけである。これに対して、比較的暮らしむきの豊かな月収二〇万円以上の高額所得者や、一戸建持家の居住者、子どものいない共働きの家庭などは、影響を受けてはいるものの、調査でみる限り、まだそれほど深刻な様子はみられない。

もちろん、やりくりをしている市民の大部分は、「必要なもの以外は買わない」（やりくりしている人の八一％）ようにしたり、

「物を大切に」（同六二％）したり、「安い店や安売りの日を選んで買う」（同五五％）など常識的な節約の方法をこうしているが（図4）、これも年代や収入によってちがいがあがる。たとえば、子どもから手の離せない二〇代、三〇代の主婦は、せっぱつまって「貯金をおろす」人の割合が増え、子どもに手がかからなくなった四〇代では、「パートタイムや内職」を始めるなど積極的な行動にでている。いちばん打撃をうけている老人は、物を買わずに大切にしている人の割合が高



い。また、低所得層で「パートタイムや内職」に出た人が多い。パートや内職をしている家庭では、やはり「やりくりしている」人の割合が、そうでない家庭より高く、インフレのなかで家計を助けるための切実な行動ととれそうだ。パートや内職もひと頃は余暇を理由とした主婦の小遣いかせぎも多かったようだが、すでにそうした余裕はなくなりつつあるようだ。一方、「不用品の交換」をしたり、「消費者団体へ加入する」などの自衛策をおこなっている人もわずかながらいるが、どちらかというと比較的収入の多い層の人である。

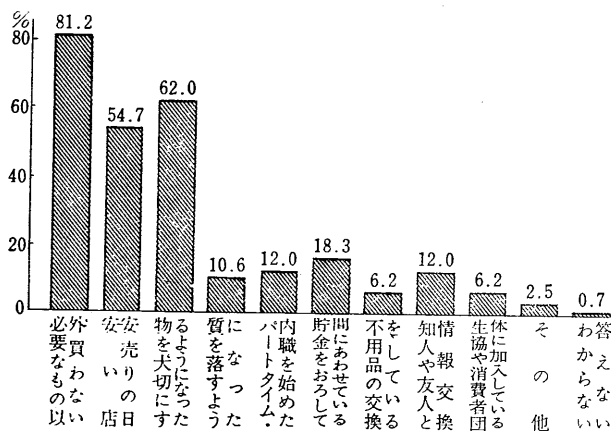
2 住宅

増える民間アパートの割合

アンケート調査によると、横浜市全体では、一戸建持家の居住者は五割余り、民間アパートは一割五分ほどであ

図-4

〔やりくりをしている人に〕あなたはどんな工夫ややりくりをしていますか。次の中にありましたらいくつでもあげてください。〔複数回答〕



〔49年4月、都市研調査〕